

# 特集 新発田の農業を俺たちにまかせる!!

新発田市農業士会は若い農業後継者の会で、農業青少年の育成や研修の受入れ、会員相互での情報交換や交流活動等頑張っておられます。

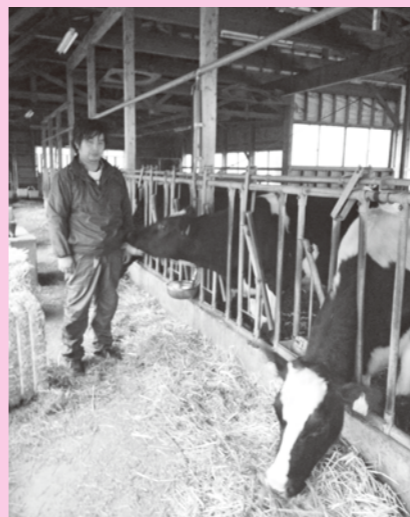
今回の特集も、先回に引き続き、厳しい農業情勢の中、しっかり将来の農業を見据え、日々頑張っている農業士会の3名の方からこれからの農業設計について語っていただきました!!

## 板山 井上 稔

我が家は、酪農と稲作を営んでいます。経営のメインは酪農で、乳牛約90頭（うち育成牛30頭）を飼育しています。

私が就農して、早いもので14年が経ちますが、最初の頃は失敗の繰り返しで、なかなか自分の思う通りに行きませんでした。最近では、個体管理技術の向上や優良後継牛の確保により、少しずつ改善してきました。やればやるだけ成果がついてくるのがこの仕事の魅力だと感じています。

ここ数年、畜産を巡る情勢は、円安による飼料高騰など大きく変



化してきました。また、日本がTPPに参加すれば、更に厳しい状況にさらされると推測されます。このような逆風に立ち向かうため、仲間と生産組合を設立して自給飼料の増産、長命連産を目指した牛群改良などに力を入れて行きたいと思っています。

今後時代の変化に対応し、家族でできる範囲で、低コストと省力化に取り組み、経営を発展させたいと思っています。

## 上寺内 居城 正寿

我が家は、13haの水稲を中心に、機械作業受託やブロッコリー、オクラを生産している専業農家です。

私は高校卒業後、東京のスーパードに5年間働いたのち、平成7年にUターンして就農しました。

私が耕作している菅谷地区は、中山間地で猿の被害に悩まされておりますが、飯豊山系から流れる水は生活雑廃水が入らない水で、その水で作ったお米は、収量こそそれほど多くはとれません、とても美味しいお米がとれます。また、低コストで安心安全は当然ですが、良質米を出荷するため3年前に色彩選別機を導入し、そのおかげで高品質なお米を出荷できるようになりました。



今、日本の農業は激しく変わろうとしています。TPP参加を始め減反廃止等、農業を取り巻く環境が変わるうとしています。今後の課題は、米の価格に対応できる農業経営と、担い手不足による農地の保全を行いつつ、時代に対応した農業経営を展開し頑張っていきたいと思っています。

## 中俣 宮島 隆行

私は加治川地区で水稲と施設野菜の複合経営を行っており、水稲は「アグリ中俣」という集落組織に参加しています。

アグリ中俣は私を含め10名の構成員で、栽培から販売まで行っています。機械設備の維持更新や販路の拡大など、組織として取り組んで行かなければならない課題も多く、将来を見据えた組織運営ができるように話しあっています。

施設野菜はトマト、ミニトマト、小松菜、オーストラポエムなどを主に栽培し、直売所やインショップなどで販売しています。また、学校給食の食材として調理場に納品しており、新発田の子供たちに少しでも多くの地元野菜を食べてほしいと考えています。



この施設野菜部門は家族労働で成り立っていますが、この先の経営を考えると、雇用を考えていかなければ現状維持すら難しくなると懸念しています。

労働力確保は現農業の課題のひとつでもあります。特に機械化できない手作業の多い部門はその筆頭です。この課題と向き合いながら消費者に求められる主力販売品種を増やし、またその販路の拡大をし、「顔の見える農産物の販売」をこれからの経営の方向と考えています。